

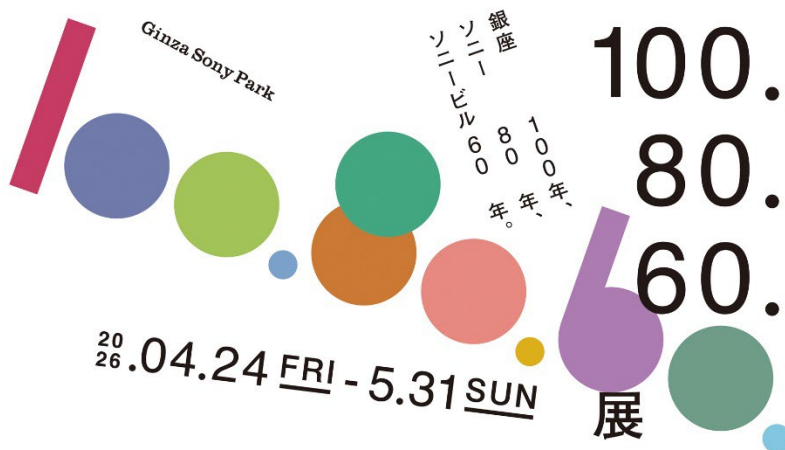
銀座100年、ソニー80年、ソニービル60年を、
11人の作家の書き下ろし作品で迎える

『100.80.60.展』

Ginza Sony Park で2026年4月24日（金）から開催

<https://www.ginzasonypark.com/activity/022>

Ginza Sony Park（銀座ソニーパーク）は、現代日本の礎を築いた「昭和」が今年で満100年を迎えることを機に、その時代の移ろいを「銀座100年、ソニー80年、ソニービル60年」というテーマで振り返るプログラム『100.80.60.展』（読み：ひゃくはちじゅうろくじゅうてん）を、2026年4月24日（金）～5月31日（日）まで開催します。



本プログラムは、時代を映す街「銀座」の100年の移り変わりを10年刻みで、「銀座と、モダン。」「銀座と、まぶしさ。」「銀座と、衣替え。」といった年代ごとのムードとして再定義し、これらのキーワードをもとに、ヒコロヒー（芸人）、皆川明（minä perhonen デザイナー）、いとうせいこう（作家・クリエイター）、又吉直樹（芸人・作家）、俵万智（歌人）、川嶋小鳥（写真家）、柴田聡子（シンガー・ソングライター/詩人）など個性豊かな11人の作家/アーティストが書き下ろしたエッセイや詩、小説を立体展示します。そしてこの銀座の100年に、ソニー創立からの80年とソニービル開業からの60年の象徴的なトピックスが重なり合い、各年代の空気感が緩やかにつながる、まるでプロムナードのような空間で、Ginza Sony Park ならではのユニークな歴史の散策を体感いただけます。

また地下1階では、ソニービル建て替えに至る意思決定から2025年のグランドオープンまでの思索と実践を記録した書籍「Document of Ginza Sony Park Project」の一部を先行展示。1966年に開館したソニービルから現在のGinza Sony Parkへと継承・進化したこの地の60年間を振り返ります。さらに、書籍「Document of Ginza Sony Park Project」は本展示コーナーで先行予約受付を開始するほか、この60年の節目に特別に制作された「Ginza Sony Park 1/300 built with LEGO® bricks」（制作：レゴ®認定プロビルダー 三井淳平）を販売します。

加えて、「100.80.60.展」の期間中、Ginza Sony Parkの地下2階と地下1階の接続部にある青タイルギャラリーにて、ソニーグループ株式会社のデザイン部門であるクリエイティブセンターが、ソニー創立80周年を記念したPOP-UP展示シリーズ「80.あなたと、ソニーの、ストーリー」（読み：はちじゅうてん）の第1弾を同時開催します。

100. 80. 60.展

銀座100年、ソニー80年、ソニービル60年。

銀座は、変わりはじめが、よく似合う。
Ginza Sony Park は、この街をそんなふうに見てきました。
たとえば、流行よりも先に、街の気分が変わったり。
ふとした瞬間に、光り方が変わったり。
いつのまにか、歩き方が変わったり。

銀座って、100年前はどんな街だったのだろう。
この街の歴史はもっと長いけれど、この100年をふりかえると、
変わるものも、変わらないものも、見えてくる気がする。
そんな思いで、Ginza Sony Park は、この100年のものがたりを
11人の書き手といっしょに、そっと綴ってみました。

同じ銀座を見ても、人によって見え方が違う。
その違いが並ぶと、銀座はもっと自由になるはず。

100年のものがたりの途中で、
ソニーとソニービル、そして Ginza Sony Park も、ふと現れます。
まぶしさの中心に余白を置いたり、静けさの中に体験を灯したり。
銀座のムードを更新してきた、ちょっとした存在として。

変わるものと、変わらないもの。
その両方を抱えたまま、銀座はまだまだ変わり続けています。
だから、おもしろい。
だから、また来たくなる。
今日の銀座も、あなたの中でこれからも続いていきますように。

■ プログラム概要

名称：『100.80.60.展』（ひゃく はちじゅう ろくじゅう てん）

日程：2026年4月24日（金）～5月31日（日）

時間：11:00～19:00（18:30 最終入場）

料金：入場無料

WEB：<https://www.ginzasonypark.com/activity/022>

ハッシュタグ：100_80_60_展

■ テーマと著者 一覧

年代	テーマ	エッセイ著者
1920年代	銀座と、モダン。	ヒコロヒー (芸人)
1930年代	銀座と、時計。	穂村弘 (歌人)
1940年代	銀座と、手直し。	伊藤亜和 (文筆家)
1950年代	銀座と、暮らし。	皆川明 (minä perhonen デザイナー)
1960年代	銀座と、まぶしさ。	小谷実由 (モデル・文筆家)
1970年代	銀座と、歩く。	いとうせいこう (作家・クリエイター)
1980年代	銀座と、ネオン。	金原ひとみ (小説家)
1990年代	銀座と、静けさ。	又吉直樹 (芸人・作家)
2000年代	銀座と、衣替え。	俵万智 (歌人)
2010年代	銀座と、撮る。	川島小鳥 (写真家)
2020年代	銀座と、途中。	柴田聡子 (シンガー・ソングライター/詩人)

■ プロフィール

ヒコロヒー (芸人)

2011年ピン芸人としてデビュー。独特の世界観とキャラクターで描く1人コントが人気で単独公演は毎回即完。バラエティ番組出演の他、ドラマ・映画出演、執筆やドラマ脚本、デザインまで幅広く活躍中。初の短編小説集「黙って喋って」(朝日新聞出版)が第31回島清恋愛文学賞を受賞。

穂村弘 (歌人)

1962年札幌生まれ。1990年、第一歌集『シンジケート』でデビュー。短歌をはじめとして、評論、エッセイ、絵本、翻訳などを手がける。著書に『手紙魔まみ、夏の引越し (ウサギ連れ)』『ラインマーカーズ』『水中翼船炎上中』『短歌の友人』『世界音痴』『もしもし、運命の人ですか。』『君がいない夜のごはん』『蛸足ノート』『迷子手帳』など。伊藤整文学賞、講談社エッセイ賞、若山牧水賞、アルスエレクトロニカ栄誉賞他を受賞。

<https://x.com/homurahiroshi>

伊藤亜和 (文筆家)

1996年、神奈川県横浜市生まれ。学習院大学文学部卒業。note掲載のエッセイ『パパと私』で注目を集め、文筆家としての活動を本格化。2024年、同作を収録した『存在の耐えられない愛おしさ』(KADOKAWA)でデビュー。他の著書に『アワヨンベは大丈夫』(晶文社)、『変な奴やめたい。』(ポプラ社)など。第19回「(池田晶子記念) わたくし、つまり Nobody 賞」受賞。ラジオパーソナリティなど多方面で活動中。

<https://x.com/LapaixdAsie>

<https://note.com/awaito>

皆川明 (minä perhonen デザイナー)

minä perhonenの前身となるブランド minä を1995年に設立。(2003年より minä perhonen として活動。) 手作業の図案によるテキスタイルデザインを中心に、ファッションをはじめ、インテリアやテーブルウェアなど生活にまつわるもの、店舗や宿などの空間ディレクションまで幅広い領域で、日常に寄り添うタイムレスなデザインを手がける。minä perhonenの展覧会「つぐ minä perhonen」は、2025年11月の東京(世田谷美術館)を皮切りに、2026年4月から長野、熊本、富山、2027年には栃木、静岡へと全国を巡る予定。

https://www.instagram.com/akira_minagawa725/

<https://www.minaperhonen.jp/>

小谷実由 (モデル・文筆家)

1991年東京生まれ。14歳からモデルとして活動を始める。

自分の好きなものを発信することが誰かの日々の小さなきっかけになることを願いながら、エッセイの執筆、ブランドとのコラボレーションなどにも取り組む。猫と純喫茶が好き。通称・おみゆ。著書に「隙間時間(ループ舎)」「集めずにはいられない(ループ舎)」「J-WAVE original Podcast 番組「おみゆの好き蒐集倶楽部」のナビゲーター。

いとうせいこう (作家・クリエイター)

1961年生まれ、東京都出身。1988年に小説「ノーライフキング」でデビュー。1999年「ボタニカル・ライフ」で第15回講談社エッセイ賞受賞、「想像ラジオ」で第35回野間文芸新人賞受賞。近著に『「国境なき医師団」を見に行く』『福島モノローグ』『能十番』『見仏記 三十三年後の約束』『日は植物』などがある。現在noteでみうらじゅんと「ラジオご歓談!」を配信中。日本にヒップホップカルチャーを広く知らしめ、日本語ラップの先駆者の一人である。現在は、□□□(クチ□□)、いとうせいこう is the poet で活動。

<https://twitter.com/seikoito/>

金原ひとみ (小説家)

1983年、東京都出身。2003年『蛇にピアス』ですばる文学賞。翌年、同作で芥川賞を受賞。2010年『トリップ・トラップ』で織田作之助賞受賞。2012年『マザーズ』でBunkamura ドゥマゴ文学賞受賞。2020年『アタラクシア』で渡辺淳一文学賞受賞。2021年『アンソールディスタンス』で谷崎潤一郎賞受賞。2022年『ミーツ・ザ・ワールド』で柴田錬三郎賞を受賞。2025年『YABUNONAKA—ヤブノナカー』で毎日出版文化賞を受賞。

https://www.instagram.com/hitomi_kanehara/

又吉直樹 (芸人・作家)

1980年大阪府寝屋川市生まれ。吉本興業所属のお笑い芸人、作家。2003年お笑いコンビ「ピース」結成、ボケ担当。2015年『火花』で芥川賞受賞。同作は累計発行部数350万部以上のベストセラーとなる。主な著作に『劇場』『人間』『生きとるわ』など。

<https://x.com/matayoshi0?s=21&t=YK06S7ChBXrRQlroyXbwfg>

https://www.instagram.com/matayoshi_staff?igsh=MmVudmMxYXU5ZGxr

俵万智（歌人）

1986年、作品「八月の朝」で第32回角川短歌賞受賞。1987年、第一歌集『サラダ記念日』を出版、ベストセラーとなる。翌年、『サラダ記念日』で第32回現代歌人協会賞受賞。2004年評論『愛する源氏物語』で第14回紫式部文学賞受賞。第四歌集『プーさんの鼻』で2006年第11回若山牧水賞受賞。歌集の他、小説、エッセイなど著書多数。歌集『未来のサイズ』で詩歌文学館賞、遼空賞。長年の創作活動とその功績により朝日賞受賞ならびに紫綬褒章。最新刊は『生きる言葉』。

https://x.com/tawara_machi

川島小鳥（写真家）

早稲田大学第一文学部仏文科卒業。主な作品集に『BABY BABY』（2007）、『未来ちゃん』（2011）、『明星』（2014）、谷川俊太郎との共著『おやすみ神たち』（2014）、『おはようもしもしあいしてる』（2020）、『(世界)²』（2021）、『s(e)oul mate』（2024）、最新写真集『サランラン 사라란 (Sa-lanlan)』（2025）。第42回講談社出版文化賞写真賞、第40回木村伊兵衛写真賞を受賞。

<http://kawashimakotori.com/>

https://www.instagram.com/kotori_kawashima/

柴田聡子（シンガー・ソングライター/詩人）

大学時代の恩師の一言をきっかけに活動を始める。現在までに7枚のオリジナル・アルバム、2冊の詩集、エッセイ集などを発表。詩集『さばーく』で第5回エルスール財団新人賞<現代詩部門>受賞。アルバム『Your Favorite Things』がCDショップ大賞2025<赤>大賞受賞。ソロ、バンドを問わない精力的なライブ活動も行っている。2026年、FUJI ROCK FESTIVAL'26への出演が決定。

<https://shibatatoko.com>

<https://www.instagram.com/batayanworld/>

■ Ginza Sony Park について



Ginza Sony Park は、東京・銀座の数寄屋橋交差点の一角にある「都会の中の公園」です。公園とは本来、使い方が決められていない余白があるからこそ、人々が自由に関わり、新しい体験が生まれる場所。Ginza Sony Park は、「余白」をデザインすることで、訪れる人が自由に使えるパブリックな場となり、そこに新たな「アクティビティ」を生み出しています。これは、ソニービルが大切にしてきた「街に開かれた施設」というコンセプトを継承したのもでもあります。

地下4階・地上5階の特徴的な建築は、あえて銀座の標準的なビルの半分ほどの高さに抑え、街に空間的な余白とリズムをもたらしています。地上は三方が通りに開かれ、地下鉄や地下駐車場とも直結。さらに、地下1階から地上2階へと広がる大きな吹き抜け構造や縦のプロムナードが、街とのシームレスな繋がりをより都会的で立体的なものにしています。

Ginza Sony Park では常設のテナントを設けず、余白を生かした多彩なアクティビティを展開。B3フロアでは、洋食をベースにしたカジュアルダイニング [Nibun no Ichi] で、食を通じた新しい体験を提供しています。

都会の中の公園を再定義して生まれた Ginza Sony Park は、余白とアクティビティによって、街や人に新たなリズムを生み出し続けます。

Sony Park 公式 Web サイト・SNS アカウント

Web : <https://www.ginzasonypark.com/>

Instagram : <https://www.instagram.com/ginzasonypark/>

X : <https://x.com/ginzasonypark/>

Facebook : <https://facebook.com/ginzasonypark/>

YouTube : <https://youtube.com/ginzasonypark/>

@ginzasonypark #GinzaSonyPark